



つなぐ

～ 緑をつなぎ、笑顔をつなぎ、未来へつなぐ。～

50th
Anniversary

「農」についての知識を深めよう 「日本農業検定」受検申し込み開始!

食の安全・安心など「食と農」に関心

や注目が集まる中、本会は農業に関する理解促進と、農の応援団を増やすことを目的に、「日本農業検定」を実施しております。

今年度は、7月に2級・3級のテキストを改訂いたしました。以前より情報量を増やし、より見やすい・理解しやすい内容に変更しています。農業の基礎的知識が中心になっている2級・3級を学ぶことによって農業の現場での知識習得につながります。そして1級ではさらに深い総合的・実践的知識を習得することができることから、農業について、段階的に幅広く学ぶことができます。

日常業務で農業や食に関する知識・技能が求められるJA職員の方にとっては、農業の基礎知識向上につながるまたよい機会になることと思います。

全国のJAでは、内定者・入職3年未満の職員をはじめ、職員の自己研鑽・職員教育の環として、過去4年間で延べ約4,800名の方が受検されました。今年度は10月2日(月)より、来年1月に行われる検定試験の公開会場・準会場申し込みが開始になりました。

ぜひ「日本農業検定」で「農」についての知識を深めてみませんか。今年度も、皆さまのお申し込みをお待ちしています。

日本農業検定はこんな検定です!

受検資格はありません。誰でも、どの級からでも受検できます。

3級

難易度 農業に興味がありこれから農業を学びたい方、これから作物栽培を始める方を対象にしています。**出題分野** 「農業全般」「環境」「食」「栽培」についての入門・基礎的なところを出題。特に栽培はプランター栽培を中心に、作物8種類の栽培方法などが出題されます。**問題数** 50問 **解答時間** 40分

2級

難易度 3級を合格された方、家庭菜園や体験農園を経験されている方・された方などを対象にしています。一坪農園程度の圃場で栽培する基礎知識を習得します。**出題分野** 「農業全般」「環境」「食」「栽培」について範囲を広げて出題。特に栽培は16種類の作物を、一坪農園程度で栽培する場合の手順や、品種とその特徴などが出題されます。**問題数** 70問 **解答時間** 60分

1級

難易度 日本農業検定の集大成として、2級・3級の基礎的な知識から農業の現場とつながり、より深い総合的な知識を習得できる内容です。**出題分野** 「農業全般」分野では世界の農業情勢等、「環境」分野では地球規模の環境問題等、「食」分野では和食と伝統的食事等、「栽培」分野では栽培環境とその管理や作物の栽培例などが出題されます。**問題数** 70問 **解答時間** 70分

日本農業検定・詳細

【1級・2級・3級】
試験日

1. 個人受検

- ① 公開会場(東京・大阪) 平成30年1月13日(土)
- ② CBT会場 平成30年1月5日(金) ~1月18日(木)

2. 団体受検

- ① 準会場(学校・その他団体) ... 平成30年1月12日(金) ~1月18日(木)

受検料

個人受検

- 公開会場 1級 5,000円 2級 4,100円 3級 3,600円
- CBT会場 1級 5,500円 2級 4,600円 3級 4,100円

団体受検

- 準会場 1級 4,500円 2級 3,700円 3級 3,250円

申込
期
間

- 1. 公開会場・準会場 平成29年(2017年)10月2日(月)~11月30日(木)
- 2. CBT会場 平成29年(2017年)12月1日(金)~12月29日(金)

詳細は下記ホームページでご確認ください ▶ <http://nou-ken.jp/>

日本農業検定

検索

「快汗! 猫の手援農隊」の受入れ事例について

「ときわにんにく収穫隊」を受入れるにあたって

JA津軽みらい 営農部営農課 営農企画 調査役 / 寺山 寿氏

JA津軽みらいでは今年7月、「快汗! 猫の手援農隊」の取り組みで「ときわにんにく収穫隊」を初めて受入れました。今回、事務局の寺山さんより、援農隊受入れまでの経緯及び感想をレポートしていただきました。



津軽平野では、水稻中心の作業体系からの転作もあり、管内農業は常盤地区を中心に、にんにくの作付けが増えています。

にんにくの収穫は同時期に一齐に収穫しないと品質に影響が出るうえ、雨天時は収穫ができないので、年々、作業員が確保できない状況になっています。

にんにくといえば「田子にんにく」のイメージが強いですが、常盤地区にも「ときわにんにく」というブランドがあることを都市住民に知ってもらったうえで、収穫作業をお手伝いしていただきたい。さらに参加者の皆さんと交流ができることも、今回の取り組みを行った理由でした。

しかし実際に募集しても、参加者が青森まで来てくれるのか、真剣に作業をしてくれるのか、受入先農家をどのように選定するか、雨天時の対応をどうするか……など、数々の課題が出てきました。すべてが初めてのことなので、何から手をつければいいのか迷いましたが、関係者一同協力しあい、援農隊を迎えました。

1日目はあいにくの雨天のため収穫作業ができず、その代わり、にんにく・りんご・米の施設案内や、りんごの選別作業を行いました。常盤地区の様々な農作物にふれてもらうことができ、参加者も興味を持って施設見学やりんごの選別作業に取り組んでもらえたので、結果的にはよかったです。

2・3日目は、にんにくの収穫と根切りを行いました。受入れをしてみて感じたことは、当初は観光気分で作業を楽しむ企画だと思いましたが、参加者の収穫作業に對

する姿勢と作業効率のよさは予想を超えていました。それに自費で参加して農作業を手伝うとは、すごいことだとも感じました。

受入農家の方の感想も、「にんにくの根切り作業で傷がつかないか心配でしたが、今回の参加者の作業を見るとベテラン作業員と変わらず手際よく、一生懸命に作業していただき大変助かりまし

た」と大好評でした。交流会については、できるだけ地元料理を食べていただきたいと思い、準備をしました。参加者の方は、地元の日本酒の飲み比べをしながら、農家・JA職員と、青森やにんにくの話題で盛り上がり、楽しい交流会になりました。にんにくを使った料理をもう少し提供できたら、もっとよかったと思いました。

来年は、より参加者の人数が増えるとうれしいです。それに合わせて受入農家の数も今年以上に増やしていきたいと思っています。今回の援農隊の受入れによって、ある程度、段取りが理解できました。参加者の仕事ぶりには受入農家の方々も本当に感心され、喜んでいましたので、ぜひ来年も継続して取り組み、都市住民との交流を広げていきたいと思っています。



■「ときわにんにく収穫隊」日程表(参加者:8名/受入農家:2軒)

期 日	時 間	概 要	食 事
1 日 目	12:45	JA津軽みらい常盤支店集合	朝食×
	13:00	オリエンテーション後 各農家に収穫作業、他農作業	昼食×
	17:00	作業終了 宿泊先へ移動	夕食○
2 日 目	7:30	圃場へ移動	朝食○
	8:00	にんにく収穫作業、他農作業	
	12:00	昼食(JA常盤支店にて)	昼食○ (弁当)
	13:00~	にんにく収穫作業、他農作業	
3 日 目	18:30	受入農家と交流会(夕食)	夕食○
	7:30	圃場へ移動	朝食○
	8:00	にんにく収穫作業、他農作業	昼食○ (弁当)
	13:00	昼食後、JA常盤支店にて解散	夕食×

本件に関するお問い合わせは

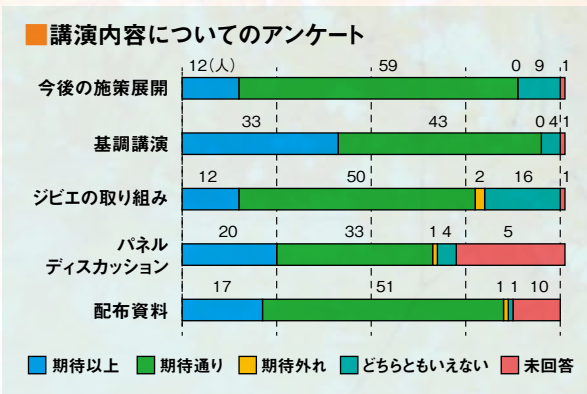
事業部 体験交流課 ☎03-5297-0323

農林水産省の交付金事業

「農泊シンポジウム」を開催しました

農林水産省が推進する農山漁村滞在型旅行「農泊」について、広く皆さまに知っていただくとともに、特に受入地域の方々に「農泊」のめざすビジネス化のイメージをお伝えすることを目的として、全国9か所でのシンポジウムを開催（農林水産省主催）し、本会および（株）農協観光は運営事務局を担当しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

全国で最初の開催となった関東ブロックでは、約170名の方にご参加いただきました。



農泊の推進に関する情報は
こちらをご覧ください(農林水産省HP) ↓

<http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/170203.html>

シンポジウムでは、農林水産省からの「農泊の推進」に関する施策説明から始まり、農家民宿等の仲介サイトを運営する（株）百戦錬磨代表取締役社長の上山康博氏による基調講演や、すでに「農泊」に取り組まれている先進地域の方々によるパネルディスカッションなどを行いました。

参加をいただいた多くの方から「ビジネスへの可能性を感じた」との評価をいただき、皆さまの期待に応える内容となりました。これらのご意見を参考に、今後本会でも「農泊」に取り組む地域に、様々な支援を実施していく予定です。

平成29年度

リスクマネジメント研修会のご案内

J・A・地域が取り組んでいる交流事業への支援の一環として、本会が毎年開催している「自然・農林体験におけるリスクマネジメント研修会」を今年度も実施いたします。

農泊を実施する際、お客さまの安全確保は何よりの優先事項です。この研修では、

最も安全管理が難しい子どもの受入れを題材にし、過去の事故事例等をもとに、安全な受入れの方法について、実践的にご紹介しています。

交流事業で農業・自然体験の受入れを実施する前に、ぜひご参加ください。

リスクマネジメント研修 開催日程

開催日程	
基本編	第1回 平成29年11月24日(金) 10時～17時30分
	第2回 平成29年12月 8日(金) 10時～17時30分
上級編 ※2日間の研修となります	第1回 平成30年1月25日(木)～1月26日(金) 1日目：13時～17時／2日目：9時～15時
	第2回 平成30年2月8日(木)～2月9日(金) 1日目：13時～17時／2日目：9時～15時
会 場	
国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)	

詳しい開催概要はこちらから ↓

<http://www.znk-kensyu.jp/risk/>

本件に関するお問い合わせは

事業部 地域交流支援課 ☎03-5297-0323

本会の土地活用の取り組みをご紹介します

～(一財)蔵王酪農センターが実施している 酪農畜産業の振興に寄与する～

本会では長年、(一財)蔵王酪農センター(宮城県蔵王町・以下センター)とともに、都市住民を対象にした自然とのふれあいや農業体験を通じ、農業・畜産業・自然に対する理解を深めることを目的にした都市農村交流事業を企画・実施してきました。現在では、公益事業の一環として、酪農畜産業の振興に寄与することを目的として土地活用を行っています。

センターが取り組んでいる酪農畜産事業の後継者の人づくり、畜産生産基盤の牛づくり、畜酪双方の餌づくり、さらには近代化のためのロボットを有効活用し、これらを推進・具体化するため、今年6月には新たに蔵王デーリパイオニアセンターを建設しました。ここでは最新のモデル農場として地域のリーダー的役割を果たし、酪農畜産の振興に貢献するセンターの取り組みについてご紹介します。

酪農の生産基盤維持・強化の取り組み

(一財)蔵王酪農センター 常務理事／菅井啓一

宮城県南西部に位置する蔵王町では、地域全体で高収益型の畜産を実現する体制をつくらうとする動きがあります。

センターはその取り組みの中核になり、平成27年に行政・生産者・J・Aグループ・民間会社等14団体が参加する「蔵王36畜産クラスター協議会」を設立しました。

協議会設立の趣旨は、生産基盤の弱体化が進む中、日本酪農の中核的存在である家族酪農経営の所得向上や省力化を実現することを目的にしています。そして協議会では、以下の5つの取り組みを掲げました。

- ① 育成牧場の整備
- ② TMR(混合飼料)生産・供給の拡充
- ③ 酪農実践農場の整備
- ④ コントラクター組織整備
- ⑤ 堆肥センターの整備

センターが主体となって申請した「平成28年度畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業」(畜産クラスター事業)により、平成29年6月に①②③の取り組みは完成しました。全国農協観光協会が所有する土地を借用し、センターが実施している事業を基本として、育成舎及び搾乳ロボット導入の新牛舎を建設。現在では実証展示による視察、新規就農希望者の研修受入れ等の普及活動を積極的に行っています。TMRセンターでは生産者の飼料コスト低減を図るため、エコフィード利活

用を推進、製造設備を増強し、地域の酪農・畜産生産者にTMRを供給しています。

また、農家チーズの普及を目的に「国産ナチュラルチーズ製造技術研修会開催」、乳業メーカー等の職員を対象とした「酪農研修開催」などを実施。酪農と牛乳乳製品品の理解・醸成を目的とした各種体験の受入れ等、センターの事業すべてが酪農・畜産の生産基盤維持・強化につながるものとして、関係機関・団体の指導と協力の下、役員一丸となつて取り組んでいます。



新牛舎全景



搾乳牛舎の様子①



搾乳牛舎の様子②



搾乳ロボット